

学習指導要領	教師の願い	児童の実態
社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。	- 資料から疑問に思ったことをもとに課題を立ててほしい。明確なゴールを設定し、それに向けて友達と協働し粘り強く話し合いをしてほしい。 - 歴史や伝統を大切に国を愛する心情を育てたい。	- 学習問題を解決するために進んで個人課題を立てて解決しようとする意欲が見られる。 - 個人課題を解決する過程で、十分な協働ができない傾向がある。

校内研究主題

主体的・協働的な学びを通して、思いや考えを深める児童の育成

<主体的・協働的>

社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考え、調べたことや考えたことを表現しようとする。
 追究の立場に基づき、調べたことを共有したり、お互いの課題について話し合ったりする。

<思いや考えを深める>

根拠や理由などを明確にして議論することを通して、新たな発見をしたり、新たな課題を見出したりする。

目指す児童像(高学年)

粘り強く対話し、様々な考えをつなげ、自分の考えを見つめ直したり、よりよくしたりする児童

仮説

教師が資料を精選し、ゴールを明確にした学習計画を立て、協働ができるように学習活動を工夫すれば、児童は自らの課題の追求に向けて粘り強く対話し、様々な考えをつなげ、自分の考えを見つめ直したり、よりよくしたりするようになるだろう。

研究主題に迫る手だて

(1)主体的に学習するための工夫

- 単元のまとめとして話し合い活動を行うという目的に対する学習計画づくりを行う。(学習問題の答えを導くだけでなく、単元のゴールを明確にした学習計画)

(2)協働的な学習活動を行うための工夫

- ロイロノートやパネル板による課題共有
 - グループ分けの工夫
- ↓
- 誰が何を調べているかが明確になり、全員で話し合いに参加して、主体的な協働を発生させることができる。

(3)学ばなくてはならないことを学ぶための個人課題作り

- クラス全体で学習問題を作り、予想を立て、個人課題作りをする。
- ↓
- 児童それぞれの調べることが拡散しにくくなり、協働場面ではより考えを深めたり、広げたりできるようになる。

第6学年社会科学習展開案

令和3年10月27日（水）第5校時
杉並区立高井戸第二小学校 6年2組 30名
授業者 教諭 飯田 健次

1 単元名 「戦国の世から天下統一へ」 9時間扱い

2 単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、地図や年表、その他の資料で調べ、戦国の世の統一に果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、表現することを通して、キリスト教の伝来、織田、豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解できるようにすることとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を育てる。

3 単元の評価規準

知識・技能	① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、地図や年表、その他の資料で調べ、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を理解している。 ② 調べたことをもとに年表や文などにまとめ、戦国の世が統一されたことを理解している。
思考・判断・表現	① 世の中の様子、人物の働きや文化遺産などに着目して、問いを見出し、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について考え表現している。 ② キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を関連付けたり総合したりして、戦国の世の統一に果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、適切に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	① 学習問題の解決に向けた個人課題や学習計画を立て、解決の見通しをもっている。 ② キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追及し、解決しようとしている。

4 単元について

(1)学習指導要領との関連

本単元は、内容(2)ア(カ)に位置づき、「キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたこと」を理解できるようにする内容となる。

織田・豊臣に関わる事象を関連、総合させて戦国の世の統一に果たした二人の役割を考える。また、ここでは、当時の世界の動きが読み取れる地図を活用しながら当時の世界と日本の関わりにも目を向け、我が国の歴史を広い視野からとらえられるように配慮する必要がある。

(2)学習材観

多くの児童に親しみのある織田信長、豊臣秀吉の二人の人物の働きを中心に学べる内容である。児童が我が国の歴史に対する興味・関心や歴史を学ぶ楽しさを味わうことができるように、児童一人ひとりが学習課題を設定し、学習を展開していく。

そこで、二人の天下統一に向けての業績を、年表やエピソードなどを参考にしながら問題解決的に追及できるようにする。そして、群雄割拠の状態から戦国の世が統一されていった様子を、二人の人物の戦い方や

政策に迫りながら、その果たした役割を考えていくようにする。その際、「信長は、どのように勢力を広げていったのか」「検地と刀狩りは、社会にどのような影響をあたえたのか」など、社会的事象の見方・考え方を働かせながら学びを深めていくことが大切である。

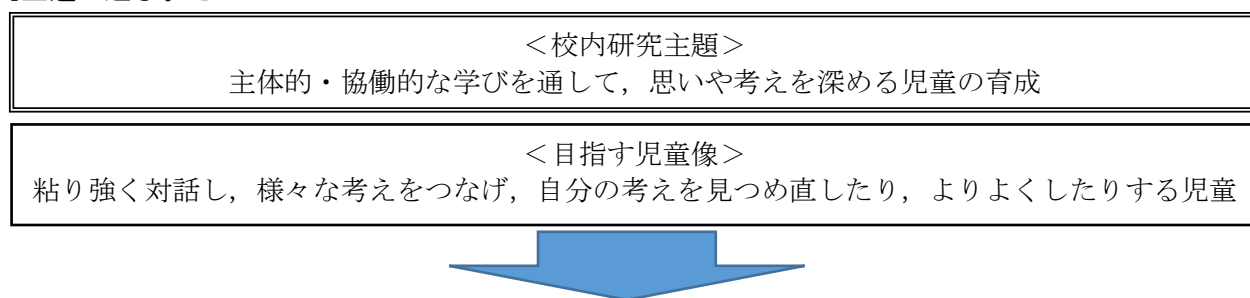
また、児童が学習計画を立てる際には、単元の終盤で、調べた内容を活用した話し合いを行うことを明示し、児童一人ひとりが終末の活動の目的意識をもち主体的に学習を進めていくようにする。

(3)学習者について

個人課題を立て、前向きに解決していこうとする意欲がある。個人が学習する時間と友達と協議する時間を個人の課題解決の進度に合わせて設定している。初めに自分なりの考えをもち、交流する必要がある。また、意図的にグループを設定することで、支援を要する児童への対応や様々な児童と交流する機会を作り、深まった協働の時間が生まれると考える。

社会科の授業では、資料を見て出た疑問を全体の学習問題として設定し、その問題について個人で調べ深めていきたいことを個人課題として設定して調べてきた。学習問題を設定してから個人課題を作ることで、大きく学習内容から外れる個人課題は少なくなっている。また、一人一台タブレットになり、インターネットから情報を得ることが容易になった。学習指導要領に記載されている指導事項にふれるには、教科書、資料集の内容を必ず調べ、さらに深めていきたいことをインターネットや本を活用して調べていくことを指導していく。

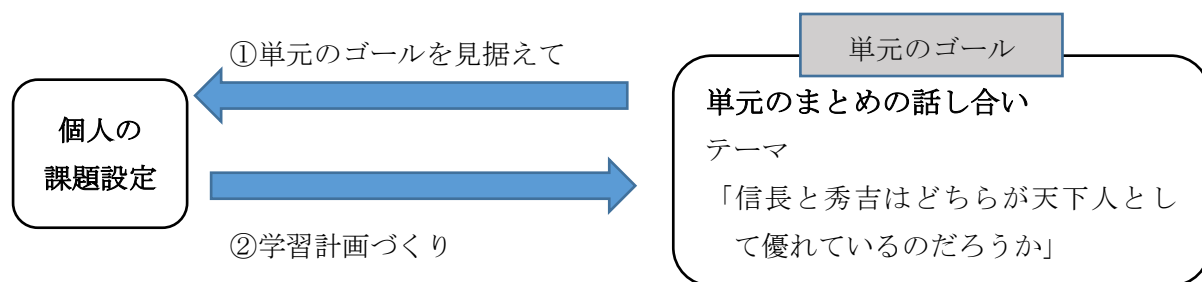
5 研究主題に迫る手だて



(1)主体的に学習するための工夫

①単元のゴールを明確にした学習計画

児童が課題意識をもつために、単元のゴールとして話し合いを設定し、それを見据えて学習計画づくりを行う。



②話し合いテーマ設定の工夫

話し合いのテーマは「信長と秀吉はどちらが天下人として優れているのだろうか」と設定する。二者択一で、自分はどちらの武将の立場にたつかが明確になり、調べ学習や議論に意欲的に取り組めるようにする。

(2)協働的な学習活動を行うために

①個人課題を共有するための工夫

協働的な学習をする際に、友達が何を調べているのか把握しておくことが重要である。そこで、誰が何を調べているのかが分かるようにロイロノートで個人課題を常に共有し、パネル板にそれぞれの武将が行った「戦い」、「政策」に分けて掲示しておくことで児童は「〇〇さんは〇〇を調べているからちょっと聞きに行こう」などと考えるようになる。また、教師も把握し助言がしやすくなる。

②グループ分けの工夫

信長と秀吉をそれぞれ「戦い」、「政策」の二つのグループに分けて、「戦い」グループ同士、「政策」グループ同士、順に話し合いを行うことで、全員が話し合い参加できるようにする。また、他の課題を調べた児童の議論を聞くことで、自分の知識を広げたり、深めたりできるようにする。

(3)学ばなくてはならないことをまなぶための個人課題作り

本小単元では、学習問題を全員で確認した上で、そのために何を調べるかを自己決定させる。学習問題に対して、予想を立て、予想を基にどのようなことを調べたいか（個人課題）を決め、学習計画を個人で立てる。学習問題を全体で決めた後に個人課題を決めることで、単元のねらいに即した調べ学習ができるようになり、協働場面ではより考えが深まったり、広げたりできるようになると考えられる。

6 単元と評価計画(全9時間扱い)

時	目標	主な学習活動	評価規準（評価方法）
1 つかむ	・資料から時代の様子を読み取り、戦国時代の特徴について理解することができる。	・資料「長篠の戦い」、「1570年ごろの主な戦国大名」を見て気付いたことを発表する。 ・なぜ戦国時代になったのか考え、話し合う。	思 戦国時代について知ったことや疑問に思ったこと、考えたことを書いている。（ノート）
2	・学習問題を立てることができる。	・戦国の世の統一、「天下統一」という言葉の確認をする。 ・織田信長と豊臣秀吉が天下統一に近付いたことを知る。 ・学習問題を立てる。	知 必要な情報を読み取り、戦国大名が各地で戦いを続ける戦国の世となったことについて理解している。 （観察、ノート）
	織田信長と豊臣秀吉は、どのように天下統一をしていったのか		
		・信長と秀吉のどちらが天下人としてすぐれていると思うか発表する。 ・最後のまとめとして議論することを知る。 ・個人課題を立て、学習計画を立てる。 ・①戦い②政策の二つの視点を知る。	主 学習問題の解決に向けた個人課題や学習計画を立て、解決の見通しをもっている。 （観察、ノート）

3 4 調 べる ①	- 自分で資料をもとに、個人課題について調べることができる。 - 調べた情報を整理しながら、ノートやタブレットにまとめることができる。	- 個人課題について資料集や教科書を活用して調べる。〈個別〉 - 情報の整理の仕方は、自分で選択する。 - 必要な時に、同じ課題を調べる児童や違う課題を調べる児童と情報や調べ方について共有し、課題解決を行う。〈協働〉 「戦い」「政策」の二つのポイントについて、調べた情報を根拠に自分の考えを書く。	知 必要な情報を集め、読み取り、織田信長や豊臣秀吉が天下統一を進めていくための戦い方や政策について理解している。 (観察, ノート)
5	調べたことを伝え合い、織田信長と豊臣秀吉の戦い方や政策をまとめることができる。	＜ポイントレッスン＞ - 個別で調べた情報をグループで共有する。新たに分かった情報などは整理した資料に書き込む。 - 調べた情報を出し合い、学級で表にまとめる。	知 必要な情報を集め、読み取り、織田信長や豊臣秀吉が天下統一を進めていくための戦い方や政策について理解している。 (観察, ノート)
6 調 べる ②	「織田信長と豊臣秀吉のどちらが天下人として優れていたか」というテーマについて、自分の考えを書くことができる。	視点別にグループ分けをし、それぞれの考えや資料をまとめ、議論に向けての話し合いをする。	思 二人の武将の天下統一に向けて果たした役割について考え、表現している。 (観察, ノート)
7 8 (本 時)	天下統一を進めた二人の武将の働きについて、学習したことをもとに話し合うことができる。	- 学習問題を振り返る。 - 立場に分かれて話し合いをする。 - 自分の考えを伝え、相手に質問をする。 - 話し合いを聞いていた質問者が質問や意見を述べ、それぞれの考えを伝え合う。 - 話し合いを通して、考えが深まったこと、広がったこと、新たに気付いたことなど学習で深まったことを発表する。	思 二人の武将の天下統一に向けて果たした役割について考え、表現している。 (観察, ノート) 知 調べ、話し合ったことをまとめ、キリスト教の伝来などの外国との関わりや二人の武将の天下統一に向けた働きを理解している。 (観察, ノート)
9 ま と め る	単元を振り返り、学習問題に対する自分の考えをまとめることができる。	- 単元全体を振り返る。 - 個人課題について調べて分かった情報を整理する。 - パネルディスカッションを通して分かった情報を整理する。 - 学習問題に対する自分の考えを書く。	主 キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追及し、解決しようとしている。 (観察, ノート) 知 調べたことをもとに年表や文などにまとめ、戦国の世が統一されたことを理解している。 (観察, ノート)

7 本時の指導(8/9)

(1)ねらい

織田信長と豊臣秀吉の働きについて、調べたことを基にどちらの武将が天下人として優れていたか議論を通して考えをまとめ、戦国の世が統一されたことを理解する。

(2)展開

学習課程	主な学習活動	○留意点 ◆評価（評価方法）
1. 前時までの学習を振り返る。 2. 本時のめあてを確認する。		○学習問題とその答えを振り返り、本時の学習に対する見通しをもたせる。
天下統一を進めた二人の武将の働きについて調べたことをもとに議論しよう。		
3. テーマに沿って話し合いを行う。	・2つのグループと役割に分かれて活動を行う。	○自分の考えとその根拠を調べてきた資料をもとに述べるように発表の仕方を確認する。 ○質問者が質問や意見、感想など言えるように、発表者の述べたことから、自分の考えの深まりや新たな気づきをメモするよう促す。 ○議論している内容を明確にするため、出た意見を整理して板書する。
テーマ 信長と秀吉のどちらが天下人として優れていたか。	流れ ① 「信長と秀吉のどちらが天下人として優れていたか」について政策をテーマに信長派と秀吉派のグループに分かれる。 ② それぞれの視点で司会、発表者（信長派と秀吉派）、質問者を決め、考えを述べる。 ③ 質問者から質問や意見、感想を聞く。	◆二人の武将の天下統一に向けて果たした役割について考え、表現している。 【思考・判断・表現】 (観察、ノート)
4. 議論を通して、新たに気付いたことや深まったこと、他の意見で参考になったことを交流する。	・議論を通して、新たに分かったこと、気付いたことなど学習で深まったことを発表する。	○信長と秀吉の働きや外国との関わりについて新たに気付いたことや理解したこと、自分の考えを見直した点等が書けるように伝える。 ◆二人の武将の天下統一に向けた働きやキリスト教の伝来などの外国との関わりを理解している。 【知識・技能】 (観察、ノート)

(3) 本時の手だて

- ・主体的に学習するための工夫

「調べたことを基に、2つの意見に分かれて議論する」ことを単元のゴールにした学習計画づくり行うことで、児童が主体的に学習できたか。

- ・協働的な学習活動の工夫

ロイロノートやパネル板による課題共有、グループ分けの工夫によって、誰が何を調べているかが明確になり、児童全員が話し合いに参加して、主体的な協働ができたか。

- ・学ばなくてはならないことを学ぶための個人課題作り

クラス全体で学習問題を作り、予想を立て、個人課題作りをすることで、児童それぞれの調べるものが拡散しにくくなり、協働場面ではより考えを深めたり、広げたりできるようになったか。

8 本単元の指導事項

	織田信長	豊臣秀吉
戦い	・桶狭間の戦いで今川氏を破り、天下統一に向けて動き出す。教 p 70 ・将軍の足利氏を京都から追放し、室町幕府を滅ぼす。教 p 70 ・長篠の戦いで、鉄砲 3000 丁使うなど新しい戦い方で武田軍を破る。資 p 74 ・仏教勢力を武力で従わせる。教 p 70	・敵対する勢力を次々と倒し、徳川家康などの大名とは和睦することで勢力を広げた。資 p 79 ・全国に勢力を広げた。資 p 79 ・中国（明）を征服しようと、2度の朝鮮侵略をした。教 p73
戦い & 政策	・キリスト教を保護することで、仏教勢力を弱め、外国の文化や情報を取り入れることができた。資 p 76 ・その資金で大量の鉄砲や軍船などの武器をそろえた。教 p 70	・天下統一を成し遂げた。資 p 79
政策	・ポルトガル人により、鉄砲が伝わり、堺で大量につくられるようになる。教 p 64 ・南蛮貿易で栄えた堺を支配し、豊富な資金が手に入るようにした。教 p 70 ・安土に安土城を築き、城下町には家来を住まわす。教 p 70 ・「楽市楽座」を行い、誰でも商売ができるようにし、商人が城下の道を通るように義務付けた。（商工業者を統制）教 p 71 ・市場の税や関所をなくす。教 p 71	・大坂に大坂城を築き、大坂中心とした物流の流れを作った。教 p72 ・石見銀山をおさえ、南蛮貿易で盛んに取り引きされた銀を手に入れた。教 p72 ・太閤検地を行い、百姓に確実に年貢を納めさせた。教 p72 ・刀狩を行い、一揆などを起こさないように百姓から武器を差し出させ、反抗できなくした。教 p72 ・太閤検地と刀狩によって、武士や百姓などの身分が区別され、武士は武士として専念できるようになった。教 p72

まとめ	織田信長は、堺などの商業都市をおさえ、支配地では楽市楽座や税や関所をなくすことで経済活動が活発になり、豊富な資金を手に入れた。その資金で、鉄砲や船を手に入れることで戦いを有利にした。また、キリスト教を保護することで、様々な文化や情報などと手に入れることができた。	豊臣秀吉は、信長の跡を継ぎ、全国の有力な大名を倒し天下統一を成し遂げる。大坂城を築き、石見銀山などを抑えることで、物流の流れや銀や金を抑え、豊富な資金を手に入れることができた。また、検地や刀狩によって武士や百姓などの身分をはっきりと区別し、武士が世の中を支配する仕組みを作った。
	織田信長, 豊臣秀吉が天下統一を目指して行った働きが, 武士が世の中を収める戦いのない時代につながっていった。	